The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞岡﨑友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太編：『バリエーションの中の日本語史』
Author(s)	西谷, 龍二
Citation	語文. 2019, 112, p. 81-81
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77208
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

紹　介

岡﨑友子・衣畑智秀・藤本真理子・森勇太編『バリエーションの中の日本語史』

西谷龍二

本書は、二〇一六年四月三〇日および五月一日に行われた研究発表会「バリエーションの中での日本語史」（主催：大阪大学大学院文学研究科日本文学・国語学研究室、共催：土曜ことばの会）でのシンポジウム・発表をもとに、数編の論文を加えた論文集である。研究会と本書は、本学大学院教授である金水敏氏の還暦記念として企画されたものである。本書は大きく四つの柱からなっている。これは金水氏の研究分野と関係があり、金水氏が研究に着手した順に配列されている。以下本書の構成を記す。

【存在表現とアスペクト】

東北諸方言の存在表現とアスペクト・テンス［高田祥司］／日本語諸方言における被動者項を指向するパーフェクトの他動詞文の多様性［竹内史郎］／市来・串木野方言の静態化体系［黒木邦彦］／存在型アスペクトの文法化のバリエーション―宮古狩俣方言からの示唆―［衣畑智秀］／リスト存在文について［金水敏］

【指示表現の地理・歴史的研究】

中古のカ（ア）系列とソ系列の観念指示用法―古典語における知識の切り替わりから―［藤本真理子］／現代語・中古語の観念用法「アノ」「カノ」［岡﨑友子］／直接経験が必要ない記憶指示のアノ［堤良一］

【「非情の受身」の発達をめぐって】

「非情の受身」のバリエーション―近代以前の和文資料における―［岡部嘉幸］／ラル構文によるヴォイス体系―非情の受身の類型が限られていた理由をめぐって―［志波彩子］／可能表現における助動詞「る」と可能動詞の競合について［青木博史］

【スタイルと役割語】

役割語の周縁の言語表現を考える―「人物像の表現」と「広義の役割語」と「属性表現」―［西田隆政］／書き手デザイン―平賀源内を例にして―［渋谷勝己］／行為指示表現「～ておくれ」の歴史―役割語度の低い表現の形成―［森勇太］／比喩によって生じるキャラクター属性―ラベルづけられたキャラクタの観点からみた―［大田垣仁］

本書の「まえがき」にもあるように、従来の日本語史研究は主に文献資料を対象として発展してきた。一方、近年の日本語史研究では、現代日本語における諸方言をも分析対象に加え、言語変化・言語変異を解明する研究が増加しており、新しい流れとなっている。このような方言やスタイルのバリエーションを、文献に基づく日本語史を軸として見通すという姿勢が本書では一貫しており、日本語研究の新しい姿が実感できる格好のショーケースとなっている。

（くろしお出版、二〇一八年四月、三〇四頁、三、七〇〇円＋税）

（にしたに・りゅうじ　本学大学院博士前期課程）